

あなたの日常に癒しの時間旅行 もうひとつのホーム、京王プラザホテル

PLAZA SMILE

Spend comfortable time at KEIO PLAZA HOTEL

プラザスマイル

12

2018

DECEMBER



歓びと寛ぎに満ちた ラグジュアリークリスマス

人々の胸の高鳴りを映し出すかのように街中が華やぐホリデーシーズン。
美しく流れる時間を、大切な人と過ごしてはいかがでしょうか。
幻想的な街並みを眺望できるお部屋に、極上のお料理。
聖夜にふさわしい特別なひとときになるよう、心を込めておもてなしいたします。

ソプラノ歌手
辰巳 真理恵
タツミ マリエ

PROFILE

シェフパティシエ
茂木 平太
モギ ヘイタ

父 辰巳球郎の出演する宮本亜門演出ミュージカル「キャンディード」に出会い音大音楽科へ。現在はコンサートやオペラへの出演、コンサートの企画制作の他、TV、演劇、ミュージカルへの出演も精力的にこなす。今年9月には待望のメジャーデビューアルバム「Ba, Be, Bi, Bo, Bu」をリリース。

1992年入社。ホテルの様々な現場で経験を積み、シェフパティシエに。歴代シェフのレシピや想いを受け継いだ丁寧な洋菓子作りを心がけ、健康志向の高まりに対応したスイーツの開発に携わるなど、新しい企画にも参加。今年の秋には新作クリスマスケーキを発表。



クリスマスは、ドレスアップしてオペラへ。

茂木 今年のクリスマスに向けて、ホテルでは長年愛されてきたフレンチエブツ「シュド・ノエル」のデザインを一新。私も2つの新作プレミアムケーキを創作しました。大人のクリスマス。をテーマに、奥深い味わい、想像力を掻き立てる美しいヴィジュアルにもこだわりました。さて、辰巳様がお活躍されるオペラの世界も、大人のクリスマス。にぴったりだと思っております。クリスマスにお勧めの作品があれば教えてください。

辰巳 ジャコモ・プッチーニ作曲の「ラ・ボエーム」でしょうか。クリスマス・イブのお話で詩人とお針子の純愛、若い芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラです。大人気ミュージカル「RENT」の原作となったのもこの作品です。私が大好きな作品でもあり、悲しいラストには毎回思わず涙しています。

茂木 貴族のための娯楽というイメージが強いオペラですが、現代のヨーロッパではどのような存在なのでしょう？

辰巳 小さな街でも劇場がいくつもあるほど、ヨーロッパでは様々な公演が頻繁に行われていて、オペラやオーケストラのコンサートは身近な存在です。オペラの本場イタリアで学んでいるのですが、朝はジーンズでノーメイクの女性が、夜になるとオペラ鑑賞のために見事にドレスアップして出かける姿が印象的でした。チケット料金にも様々な種類があり、数万円の席から数千円の席まで。様々な世代の方に楽しんでいただけるようになっています。

茂木 身分や年齢を問わず、様々な人がオシャレをして楽しむものですね。オペラと言えば「椿姫」や「魔笛」など海外の作品が有名ですが、日本語の作品はあるのですか？

辰巳 やはりイタリア語やドイツ語、フランス語の作品が主だと思うのですが、日本ではほとんどの公演が字幕付きです。音楽だけでなく物語の内容も理解できるので安心して観ることができます。最近では字幕にも演出家や翻訳家の個性を感じるものが多いので楽しく観ています。日本

で生まれた新作オペラも続々と発表されています。私も今年12月「景虎(かげとら)―海に消えし夢―」という悲劇の戦国武将上杉景虎を題材とした新作の日本語オペラに出演させていただきます。また来年2月、フランスで絶賛を浴びた三島由紀夫原作「金閣寺」の東京凱旋公演が行われます。日本を代表する作曲家黛敏郎が作曲したオペラ「金閣寺」はベルリン・ドイツ・オペラによって委嘱初演された、世界中に熱狂的ファンがいる名作です。その「金閣寺」を、今回はあのお宮本亜門様が演出していただきます。三島由紀夫、黛敏郎、宮本亜門という夢の共演が実現した「金閣寺」。美しく狂おしい、日本が生んだ話題のオペラ作品です。私も必ず観に行こうと思っています。

茂木 古典的なものから現代的なものまで、色々な作品があるんですね。何百年も前から愛され続けているオペラの魅力について辰巳様のお考えを聞かせてください。

辰巳 よくオペラとミュージカルの違いを聞かれるのですが、一番の違いはマイクを使わないことだと思います。クラシック歌手はマイクを使わず独自の歌唱法でホールの最後列まで声を届け、音楽は何十人、時には100人近い編成のオーケストラがその場で奏でます。音に関して電子機器を使わないのがオペラ。生歌、生演奏ならではの一期一会の音楽、毎回違った感動を味わえるのが一番の魅力です。また、オペラは同じ演目でも演出家や指揮者、出演者が違うと全く違う印象になるので、一度観たことがある演目でも、二度三度と楽しめます。公演によっては、海外から舞台セットや衣装を取り寄せることもあり、ヨーロッパの荘厳な舞台や衣装も魅力のひとつです。オペラには「楽譜に忠実に歌う」という



原則があり、言うなれば古く奥ゆかしいヨーロッパの伝統芸能です。そこに現代の演出家や指揮者、歌手が加わることで時代間の感覚の違いが埋まり、現代人が感動できる作品になることも多いのではないのでしょうか。オペラに出演している私自身当時の作曲家、役、そしてお客様と同じ空間で感情がシンクロする瞬間があるので、その時に一番幸せを感じます。

茂木 伝統を受け継ぎながら、現代人が感動できる作品。それはホテルシェフにも通ずるものがあります。2021年にホテル創業50年を迎えるのですが、ホテルの歴史を築き上げてきた今までのシェフやスタッフ、お客様の想いを守りながら新しいものを創造するのが私の役目です。決して独りよがりにならず、ホテルとしての伝統を第二にしながら個性を發揮していく。昔からご利用いただいているお客様を大切にしながら、新しいお客様にも目を向けた商品をお届けしていきたいです。

辰巳 茂木さんが手がけられた新作のクリスマスケーキ「タリナ」は本の形に作られています。そこにはどんな想いがあるのですか？

茂木 お客様がケーキを手にした瞬間から食べ終わるまでの、素敵な物語が綴られた本がイメージです。このケーキを選んだ方には、シックで重厚な表紙にふさわしい、オペラを楽しむような大人のクリスマスストーリーを紡いでいただけると嬉しいです。

辰巳 そのような素敵な想いが込められていたんですね。私も今年は、ケーキからはじまる素敵なクリスマスの思い出を作りたいと思います。